



第104期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日



Evolution for Customers

— 全進で未来へ“シンカ” —

株主の皆様には日頃より当社グループへのご支援を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

さて、先日第104期（2025年4月1日～2026年3月31日）の決算発表ならびに「中期経営計画2028」の上方修正を公表いたしましたので、株主の皆様には当社グループの状況、そして今後の取組等を詳細にお伝えできればと思います。ご一読いただけますようよろしくお願い申し上げます。

株式会社ヒガシホールディングス
取締役 代表執行役社長 児島 一裕

Q1 2026年3月期の業績についてどのように評価されていますか。

2026年3月期は、全事業領域で成長戦略を遂行し、グループ一丸となって事業取組を進めた結果、売上高は579.7億円（前年同期比20.5%増）、経常利益は41.5億円（同41.4%増）と、ともに過去最高を更新したことに加え、中期経営計画2028の当初目標数値を初年度に達成する結果となりました。

好調な業績を受け、期末配当は前期の42円から18円積み増し、2026年3月期の最終的な1株当たり配当金は60円（配当性向30.1%）とさせていただきます。

売上高については、前期に引き続き大手EC向け業務が増収の最大要因となりました。2024年8月に開設した川西LC※の本格稼働や、既存の大型3PLセンターでの取扱量増加といった3PL業務の拡大に加え、大手EC向け輸送業務についても、前年度は約2.5万便だった運行数を、約7万便へと3倍近く増便しており、増収に大きく寄与しております。さらに、オフィスサービス事業での大型案件受注、NEXTGIGAスクール構想に伴うICT

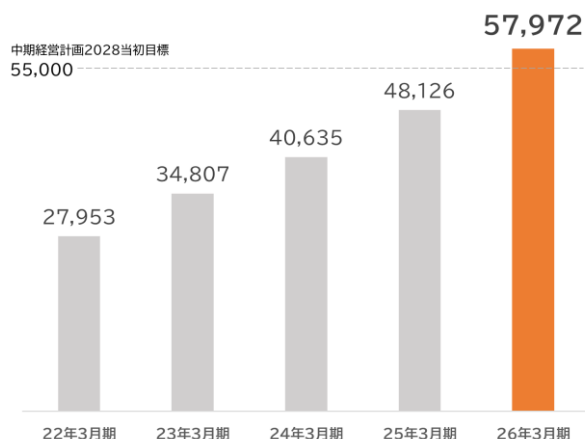
機器の更新案件の受注と、それに関連したICT機器販売の受託、2024年10月より連結を開始した株式会社ネオコンピタンスの連結期間通年化の効果等、幅広い事業での業容拡大により、目標数値を大きく上回る増収となりました。

また、経常利益は、上記の業容拡大に加え、前期までは立ち上げ期間であった大手EC向け大型3PLセンターの収益化等が牽引し、増益となりました。※LC：ロジスティクスセンターの略（以下同様）

売上高・経常利益の推移

売上高

(百万円)

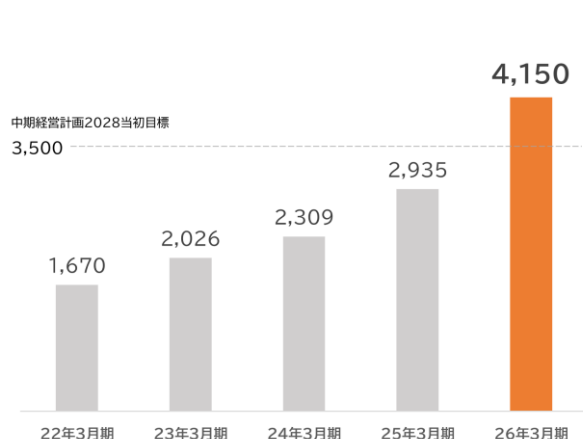


なお、2026年3月期は中期経営計画2028の初年度として、全事業領域の成長を目標に掲げ事業に取り組んでまいりましたが、想定を上回る業容拡大の結果、売上高・経常利益ともに中期経営計画2028の最終年度の目標数値を超過達成いたしました。これを受け、中期経営計画2028の最終年度目標数値を上方修正いたしました。

※詳細はQ3をご確認ください。

経常利益

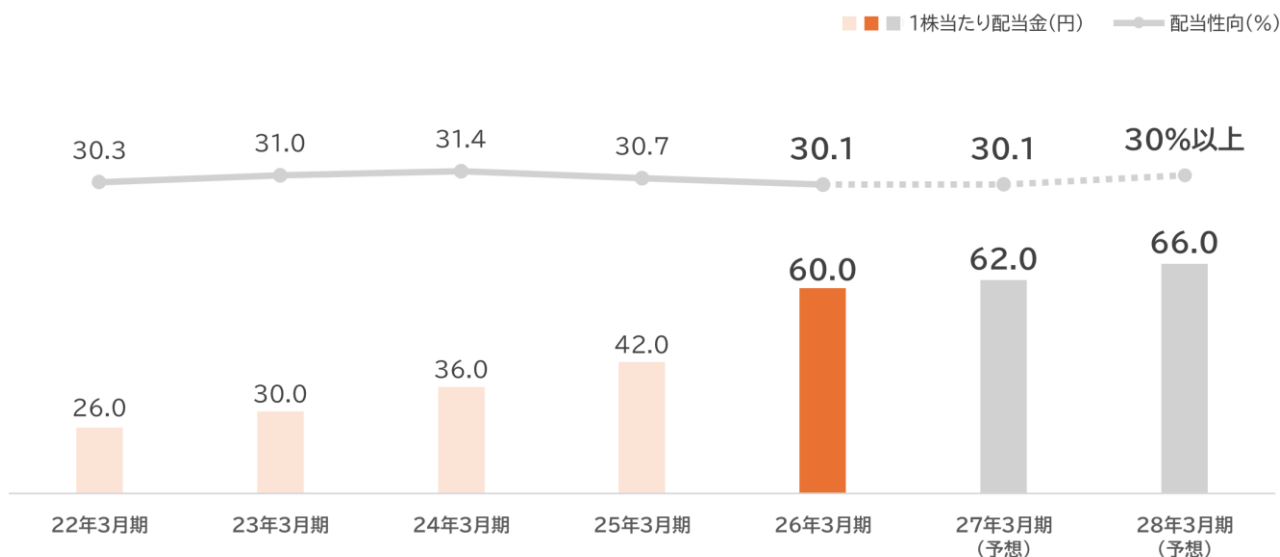
(百万円)



さらに、この堅調な業績結果を踏まえ、2026年3月期の最終的な1株当たり配当金は前年から18円積み増しの60円とさせていただきます。

今後も当社グループでは、長期的発展の礎となる財務体質の強化と、安定配当の維持を基本としつつ、成長により獲得した利益を連結配当性向30%以上を目安に還元する方針を掲げ、株主の皆様へ評価いただけるよう、株主還元を進めてまいります。

1株当たり配当金・配当性向の推移



Q2 2027年3月期の業績見通しについて教えてください。

2027年3月期の業績見通しについては、大手EC向け業務の拡大等が寄与し、売上高は590億円、経常利益は42.5億円を見込んでおります。

物流業界においては、中東情勢を背景とした原油価格の上昇や石油関連化学製品の供給制約による原材料不足、人件費の高騰をはじめとする物価上昇の影響等、今後も不透明な経済環境が継続するものと予想されます。

こうした状況を踏まえ、2027年3月期は保守的に、売上高590億円（前年同期比1.8%増）、経常利益42.5億円（同2.4%増）として、成長を継続する計画といたしております。

売上高について、2026年3月期はICT機器販売や大型オフィス移転案件等の一時的な大型案件が業績押上げに一定寄与したため、2027年3月期においては当該案件収束による反動を見込んで

しております。

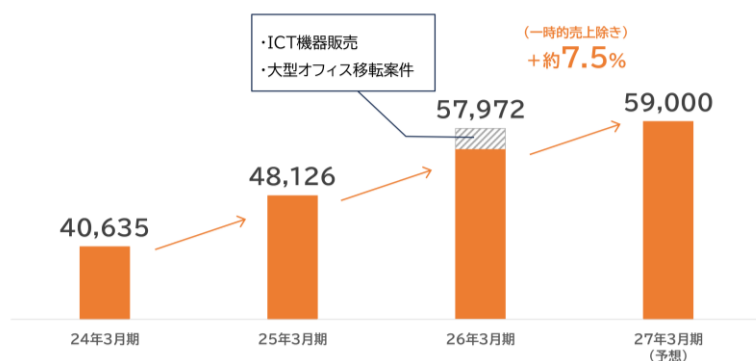
一方で、2026年5月に増床部分の稼働を開始した流山LCをはじめとする大手EC向け3PLセンターでの取扱量の増加や輸送業務の拡大に加え、NEXTGIGAスクール構想に伴うICT機器の更新案件の継続対応、適正価格への継続的な見直し等により、増収を想定しております。

前年同期比1.8%増収の計画となっておりますが、上述の前年度の一時的な売上を除けば成長率7.5%と引き続き高い成長基調を確保しており、堅調な推移を見込んでおります。

売上高の成長率

※2026年3月期における一時的な売上高を除く

(百万円)



利益については、幅広い事業領域での業容拡大に向けた車両・設備・人材への投資が計画されているものの、上記の増収に加え、前期に先行実施した投資に伴う費用の減少が寄与し、増益を想定しております。

なお、当予想には、原油価格高騰に伴う燃料費の上昇を織り込んでおりますが、当社グループの2026年3月期売上高に対する燃料費の割合は約0.4%であるため、直接的な影響は僅少となります。

Q3 中期経営計画2028の進捗を教えてください。

想定を上回る業容拡大の結果、計画初年度となる2026年3月期に当初の業績目標数値を達成したため、中期経営計画2028の最終年度の目標数値を売上高610億円、経常利益44億円に上方修正いたしました。

当社グループは、2025年5月9日公表の「中期経営計画2028」において、当3カ年を「プライム市場昇格へ向けたファンダメンタルズを完成させる3年」と位置付け、全事業領域での事業成長に取り組んでおります。

計画初年度となる2026年3月期は過去最高を更新する好業績で、最終年度目標数値である売上高550億円、経常利益35億円を超過達成する結果となりました。これを受け、「中期経営計画

2028」の最終年度である2028年3月期の目標数値を売上高610億円、経常利益44億円に上方修正いたしました。

計画最終年度に向けて、流山L C増床部分の本格稼働に加え、自社大型車両の増車に伴う輸送業務の拡大や、冷蔵・冷凍輸送業務の拡大、大手インフラ会社向け資材販売の取扱量・品目の増加等、引き続き全事業領域で成長戦略を遂行することで更なる業容拡大を図ってまいります。



項目	中期経営計画2028 当初目標	中期経営計画2028 修正後目標
売上高	550億円	610億円
経常利益	35億円	44億円
1株当たり配当金	57円00銭	66円00銭
ROE	8%以上	8%以上
配当性向	30%以上	30%以上
従業員数	1,800名	1,850名

【プライム市場昇格にける想い】

当社グループを取り巻く事業環境は、物価上昇に伴う個人消費の低迷や、人材不足の深刻化など、企業経営に影響を及ぼす様々な課題が顕在化しております。こうした環境下において、当社グループが持続的な成長を実現していくためには、顧客基盤の拡大及び安定的な人材確保に加え、企業としての信頼性を一層高めていくことが重要な経営課題であると認識しております。

このような認識のもと当社グループは、より高いガバナンス水準を備え、投資家との建設的な対話を重視するとともに、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を志向する企業向けの最上位市場であるプライム市場への市場区分変更を目指しております。

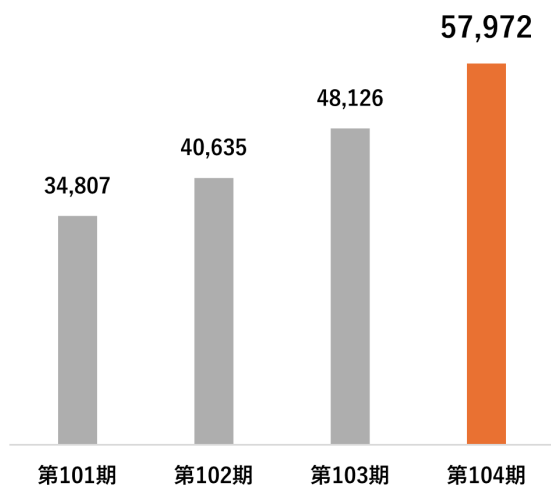
なおプライム市場への昇格には、主に財務的要件の充足と高度なガバナンス水準が求められます。当社グループは現状、形式要件については概ね充足しており、株式時価総額要件についても、事業成長による増配やIR活動の強化を通じて更なる拡充を図ってまいります。

また、ガバナンス水準の引き上げについても、2025年4月に持株会社体制へ移行し、ホールディングスが各グループ会社を横串で深度深く管理・支援する体制となり、全子会社の取締役会設置会社化、内部管理体制の一層の強化等、充足に向けて着実に取組を進めているところです。

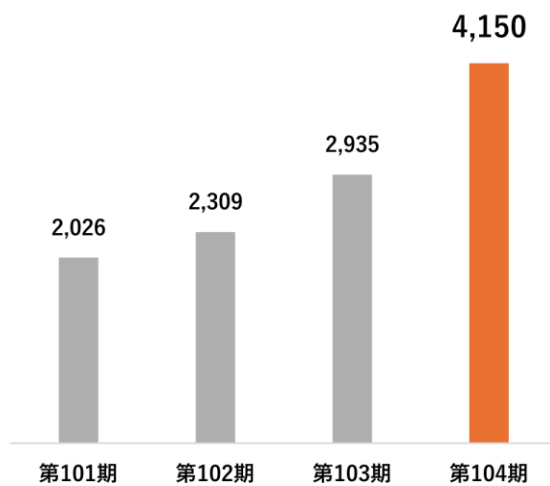
足元の課題はプライム市場への昇格要件の充足ではありませんが、当社グループにとって昇格がゴールではありません。プライム市場への移行により資本市場におけるプレゼンスを高めることは、当社グループの社会的信用力及びブランド力の向上、ひいては新規取引先の開拓や既存取引の拡大、採用市場における競争力の強化につながるものと考えております。中長期的な企業価値の向上のため、今中期経営計画を通して透明性・実効性の高いガバナンス体制のもと、更に強固な経営基盤の構築を推進してまいります。

決算ハイライト

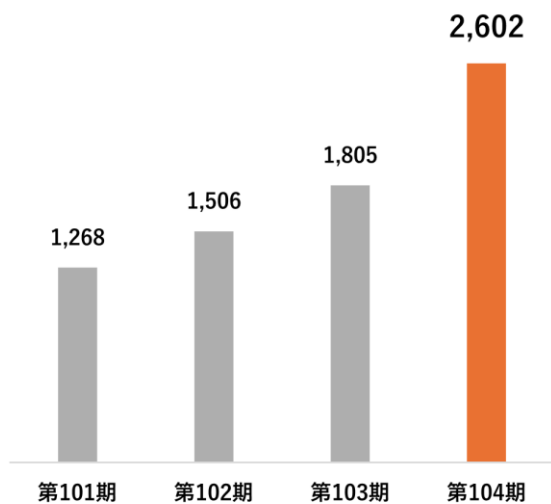
売上高（百万円）



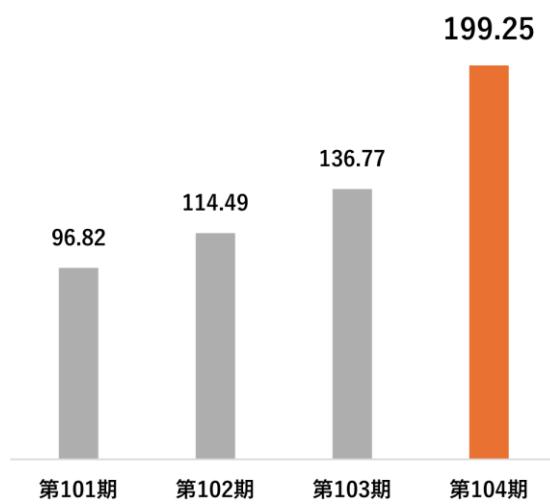
経常利益（百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）



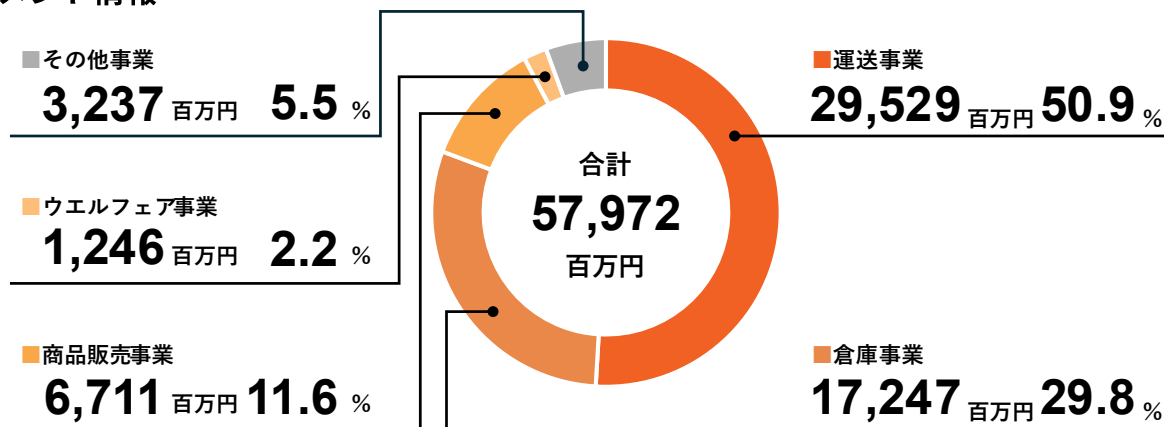
1株当たり当期純利益（円）



事業の概況



セグメント情報

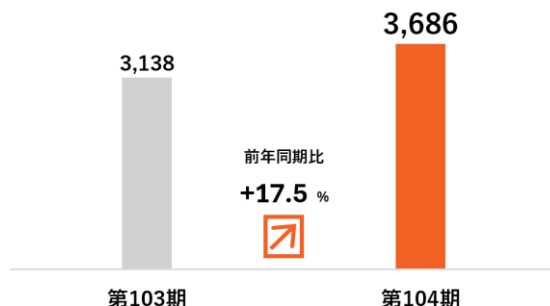
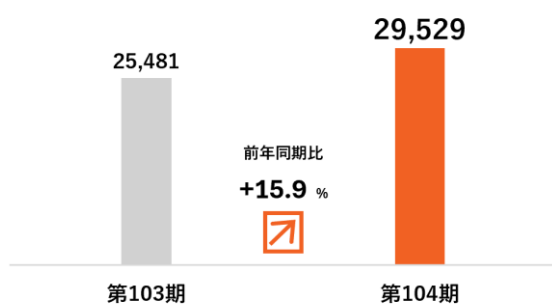


運輸事業

当事業につきましては、売上高は295億29百万円（前年同期比15.9%増）となり、セグメント利益は36億86百万円（同17.5%増）となりました。これは主に、大手E C向け輸送業務の拡大と、移転事業・ビルデリバリー事業の成長等により売上が増加したことによるものです。

売上高 (百万円)

セグメント利益 (百万円)

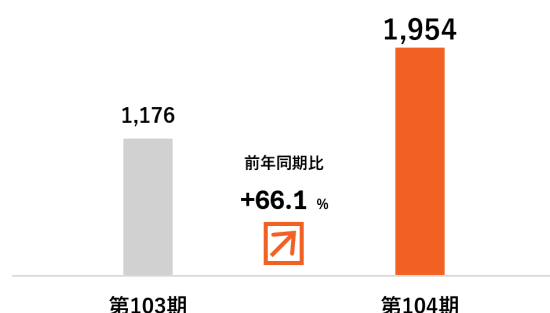
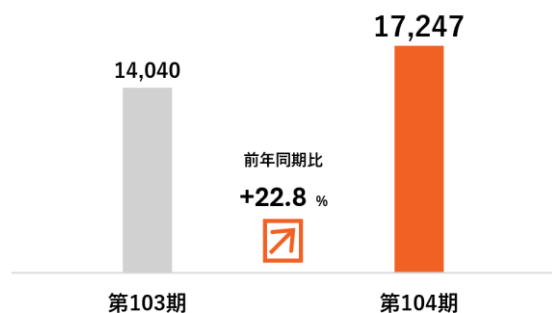


倉庫事業

当事業につきましては、売上高は172億47百万円（前年同期比22.8%増）となり、セグメント利益は19億54百万円（同66.1%増）となりました。これは主に、前年度に新規開設した大手E C向け大型倉庫の本格稼働等により売上が増加したことによるものです。

売上高 (百万円)

セグメント利益 (百万円)

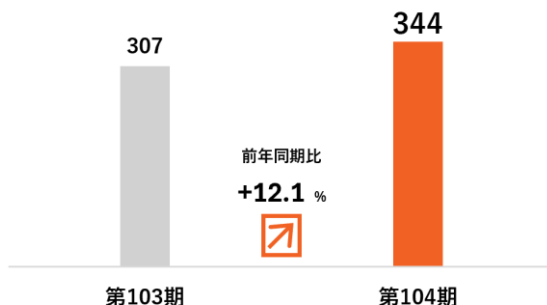
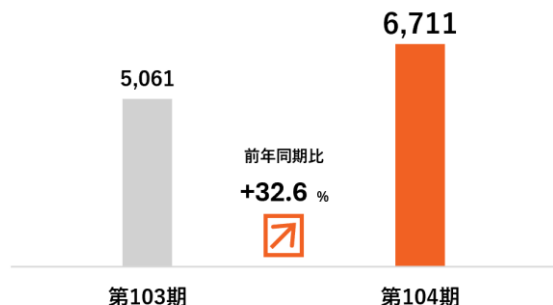


商品販売事業

当事業につきましては、売上高は67億11百万円（前年同期比32.6%増）となり、セグメント利益は3億44百万円（同12.1%増）となりました。これは主に、大手インフラ会社向け資材販売業務と、NEXTGIGAスクール構想に伴うICT機器の取扱いの増加等により売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）

セグメント利益（百万円）

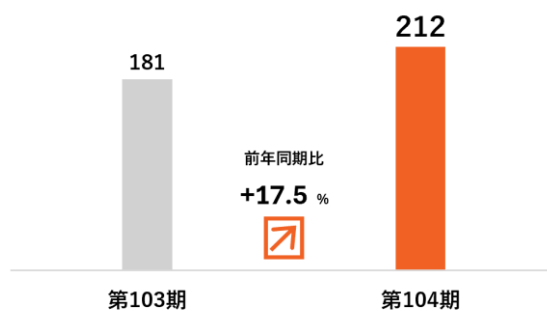
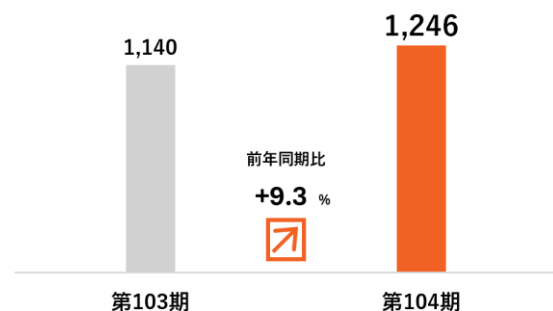


ウエルフェア事業

当事業につきましては、売上高は12億46百万円（前年同期比9.3%増）となり、セグメント利益は2億12百万円（同17.5%増）となりました。これは主に、福祉用具の新規貸出しの増加等により売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）

セグメント利益（百万円）

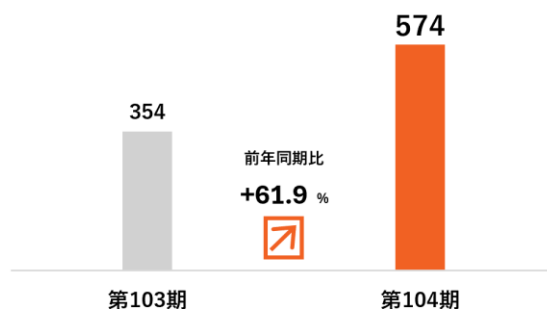
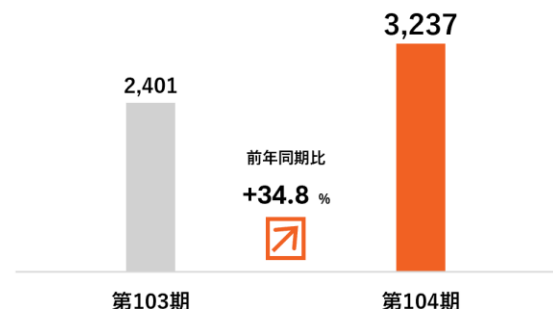


その他事業

当事業につきましては、売上高は32億37百万円（前年同期比34.8%増）となり、セグメント利益は5億74百万円（同61.9%増）となりました。これは主に、2024年10月より連結を開始した株式会社ネオコンピタンスの通年化等により売上が増加したことによるものです。

売上高（百万円）

セグメント利益（百万円）



TOPICS



TOPICS1 株式会社F Mサポート 21が新拠点でのビルデリバリー事業を開始しました

当社グループの株式会社F Mサポート 21では、独自のノウハウを活かし、高層ビル内配送を効率化する「ビルデリバリー事業」を展開しています。ビル内の複雑な物流を一括管理することで、施設周辺道路の渋滞や路上駐車との緩和に伴うCO₂の削減、来館者・歩行者の安全確保、施設内のセキュリティ強化などを実現しています。また、各テナント様の総務代行業務も同時に請け負い、業務負荷の軽減にも貢献するなど、物流の「効率化」にとどまらない付加価値を提供しています。

近年は、都心大規模再開発の機会を捉えたビルデリバリー拠点の拡大を着実に進めており、2025年度は東京・大阪で合計8拠点を新規開設いたしました。なお、2025年度下期に新規ビルデリバリー業務を開始した拠点は下記の通りです。

2025年11月 八重洲ダイビル（東京都）

2025年12月 IT tower TOKYO（東京都）、淀屋橋ゲートタワー（大阪府）

2026年3月 クオーツ心齋橋（大阪府）

また、F Mサポート 21が運営する管理ビル及び管理センターは計29拠点となります。今後も多様なニーズに応えながら、更なる事業拡大とサービス品質向上に取り組んでまいります。



八重洲ダイビル（東京都中央区）



クオーツ心齋橋（大阪府大阪市）



淀屋橋ゲートタワー（大阪府大阪市）



IT tower TOKYO（東京都豊島区）

管理ビル・管理センター一覧

■：東京 ■：大阪 ■：愛知

- | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|
| ■ 六本木ヒルズ | ■ 神谷町トラストタワー | ■ ニッセイ新大阪ビル |
| ■ 表参道ヒルズ | ■ 赤坂グリーンクロス | ■ オフテージビル |
| ■ 東京オペラシティビル | ■ 虎ノ門アルセアタワー | ■ グラングリーン大阪南館 |
| ■ エステック情報ビル | ■ 赤坂トラストタワー | ■ 松下 IMP ビル |
| ■ 日本生命丸の内ビル | ■ ヒューリック銀座ビル | ■ ツイン 21MID タワー |
| ■ アークヒルズ仙石山森タワー | ■ 八重洲ダイビル | ■ クオーツ心齋橋 |
| ■ ワテラス | ■ IT tower TOKYO | ■ 淀屋橋ゲートタワー |
| ■ 神宮前タワービルディング | ■ グランフロント大阪南館 | ■ グローバルゲート |
| ■ 日本生命浜松町クレアタワー | ■ 堂島アバンザ | ■ ザ・ランドマーク名古屋栄 |
| ■ ハレザタワー | ■ 新ダイビル | |

TOPICS 2 ▶ 流山LCが増床稼働いたしました

当社グループの中核事業会社である株式会社ヒガシトゥエンティワンでは、3PL事業の拡大に伴い、既存の大手EC向け大型3PLセンターである「流山ロジスティクスセンター」を増床いたしました。

当センターは、2023年4月の開設以来、順調に稼働を続けております。

今回の増床により、延床面積は当初の約2倍となる約29,533坪となり、当社グループ史上最大規模の3PLセンターとなりました。なお、増床部分については、2026年5月より順次稼働を開始しており、1日あたり最大出荷件数および、最大入荷件

数が大幅に増加するほか、トラックバス数も拡充し、取扱物量の増加や繁忙期における対応力をさらに強化いたします。

2026年6月現在、当社では計5拠点の大手EC向け3PLセンターを運営しております。

今後も、当社グループではお客様に最適で高品質な物流サービスを提供できるよう、更なるサービスレベルの向上を目指し、業容拡大と収益基盤の強化に取り組んでまいります。



TOPICS 3 ▶ ITサービス事業において業務提携契約を締結いたしました

当社グループは、運送事業を基盤に事業の多角化を進めており、ITサービス事業ではPCキittingからICT機器の調達・運用・廃棄までを一貫して提供する体制を構築しております。

この度、当社グループのITサービス事業の更なる強化と、SMFLグループの幅広い顧客基盤を活かしたサービス拡大を目的として、当社及び株式会社ヒガシトゥエンティワンが、三井住友ファイナンス&リース株式会社（SMFL）及びSMFLレンタル株式会社と業務提携契約を締結いたしました。

本提携により、三井住友ファイナンス&リース株式会社（SMFL）の広範な顧客基盤を活用し、SMFLレンタル株式会社向けのICT機器キittingサービス等の提供を拡大することが可能となります。また、SMFLレンタル株式会社においても、当社グループのキitting及び輸送サービスを活用することで、より多くの顧客ニーズへの対応が可能になります。

さらに、2025年6月に当社グループに加わった株式会社ピアレスは、首都圏においてICT機器導入時のシステムの企画、キitting、データ消去、サーバー構築に加え、常駐・リモートによる運用支援や障害対応など、幅広いITサービス事業を展開しております。本提携は主として西日本地区における体制強化を対象としておりますが、株式会社ピアレスを含む当社グループ全体のITサービス機能がさらに厚みを増すこととなり、中長期的な更なるシナジー創出を目指してまいります。

今後も、各事業分野におけるサービスの効率化・高度化を進めるとともに、共同事業化を含む、更なる協業の可能性を検討し、企業価値の向上に努めてまいります。



三井住友ファイナンス&リースグループ



- SMFLレンタル株式会社専用のPCキitting等に対応する拠点を整備し、サービス提供を拡大
- キitting、現地セッティング、保守・メンテ、データ消去・廃棄までのワンストップサービスを提供可能

- 三井住友ファイナンス&リース株式会社の、広範かつ強固な顧客基盤とネットワークを活用し、幅広いお客様へIT機器レンタルを提供
- 当社が整備する専用拠点により、西日本地区におけるPCLレンタル品の供給力が強化され、より多くのお客様からの要望に対応可能に

双方のグループ全体での企業価値向上を目指す

ひまわりプロジェクトについて

当社グループでは、太陽のようにあたたかく、ひまわりのようにやさしい気持ちで子どもたちの未来を応援したいという思いを「ひまわりプロジェクト」と名付け、子どもを軸とした様々な支援活動を行っています。

①「こころの劇場」大阪府公演への協賛と運営ボランティアの参加

当社グループが2023年度より協賛している「こころの劇場」（主催：一般財団法人舞台芸術センター／劇団四季、後援：文化庁）大阪府公演に、当社社員が運営ボランティアとして参加しました。

「こころの劇場」は、全国の小学生を学校単位で劇団四季ファミリーミュージカル公演へ無料招待するプロジェクトであり、子どもたちの豊かな心の育成を目指し、「生命の大切さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」など生きていく上で大切なことをテーマとした舞台作品を通じて、感動の輪を広げる取組です。

<2025年度の上演作品と観劇の様子>



劇団四季ミュージカル『王子と少年』



出演者によるお見送りの様子

② 園児向け「交通安全教室」の開催

当社グループでは交通安全啓発の取組として、2019年度より地域の保育園児・保育士に交通ルールや交通安全への知識を伝える「交通安全教室」を実施しております。2025年度は当社大阪本社ビルに入居しているピッコロ子ども倶楽部谷町園、ぴっころきっず谷町園の2～5歳の園児約70名を対象とし、東警察署交通課と共同で開催いたしました。



当社グループは「安全と安心を大切に、物流事業を通じ社会に奉仕する」という経営基本方針のもと、子どもたちを安全・安心に育むことのできる社会の実現を目指し、引き続き様々な社会貢献活動に取り組んでまいります。



ひまわりプロジェクト

働きやすい職場認証制度「二つ星」の取得

当社グループでは、働きやすい職場認証制度（正式名称：運転者職場環境良好度認証制度）の対象となる全グループ会社において、2026年4月1日付で「二つ星」認証を取得いたしました。

本制度は、自動車運送事業におけるドライバー不足の解消に向け、国土交通省・厚生労働省が推進する制度で、一定の基準を満たした事業者を「働きやすい職場」として認証するものです。

今回取得した「二つ星」認証は、法令遵守のみならず、法令を上回る労働条件や労働環境改善に向けた取組を相当程度実施していると認められた事業者に付与されるものです。

過年度に認証を取得済みであった株式会社ヒガシトウエンティワン及び株式会社ワールドコーポレーションに加え、ユートランスシステム株式会社、株式会社トランスポート21、山神運輸工業株式会社の3社についても、今回初めて上位認証である「二つ星」を取得いたしました。当社グループでは、認証対象会社を中心にドライバーの職場環境整備に向けた取組を着実に進めています。

今後も、ドライバーをはじめとする従業員の働きやすい職場環境の整備を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。



二つ星認証取得会社

- 株式会社ヒガシトウエンティワン
- 株式会社ワールドコーポレーション
- ユートランスシステム株式会社
- 株式会社トランスポート21
- 山神運輸工業株式会社

※過年度取得済

※新規取得

認証項目	主な審査内容
1. 法令遵守	労働基準法、36協定等の違反有無等
2. 労働時間・休日	長時間労働の管理、休日取得への取組み状況等
3. 心身の健康	健康診断の実施、ハラスメント相談窓口の設置状況等
4. 安心・安定	補償制度の有無、再雇用制度の有無等
5. 多様な人材の確保	資格取得支援制度の有無、女性運転手の働きやすさ等
6. 自主性・先進性	上記1～5における自主的・先進的な取組みの実施等

「一つ星」認証項目

「二つ星」認証追加要件

環境保全に向けた取組状況

当社グループでは、気候変動問題を重要な課題の1つと位置付け、環境負荷の低減に向け、事業活動に伴うCO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

主な取組として、2025年2月、株式会社ヒガシトウエンティワンの新規拠点である小牧ロジスティクスセンターに自家消費型の太陽光発電設備を導入いたしました。また、CO₂排出量が実質ゼロとなる「非化石証書」を活用したCO₂フリー電力については、既に多久ロジネットセンターにて利用しておりますが、2026年4月よりドキュメントサービスセンターにおいても利用を開始しております。加えて、長寿命かつ省電力化に資するLED照明や、ハイブリッド車の導入についても順次進めております。

CO₂フリープランによる電力の利用

ドキュメントサービスセンター

多久ロジネットセンター



多久ロジネットセンター 2025年度実績

⚡ CO ₂ フリー電力使用量	156,948 kWh
☁️ 電力由来CO ₂ 排出量	0 t-CO ₂
☁️ CO ₂ 排出削減貢献量	約74.1 t-CO ₂
🌲 木換算	約5,300 本分

※ 電力由来CO₂排出量は、CO₂フリープランに係る調整後排出係数に基づき算定
 ※ CO₂排出削減貢献量は、CO₂フリー電力を利用しなかった場合との比較による参考値であり、CO₂排出係数0.472kg-CO₂/kWhを用いて試算
 ※ 木換算は林野庁公表値（スギ1本あたり年間約14kg-CO₂吸収）に基づき試算

太陽光発電による電力活用

小牧ロジスティクスセンター



2025年度実績

☀️ 太陽光発電電量	89,291 kWh
☁️ CO ₂ 排出削減貢献量	約36.7 t-CO ₂
🌲 木換算	約2,600 本分

※ CO₂排出削減貢献量は、太陽光発電による電力を利用しなかった場合との比較による参考値であり、CO₂排出係数0.411kg-CO₂/kWhを用いて試算
 ※ 木換算は林野庁公表値（スギ1本あたり年間約14kg-CO₂吸収）に基づき試算

その他の取組



LED照明の導入

長寿命・省電力を実現



ハイブリッド車の導入

環境にやさしい車両を順次導入

長寿命・省電力を実現するLED照明や、環境にやさしいハイブリッド車の導入についても、順次進めております。



今後も当社グループは、持続可能な社会の実現に貢献すべく、さらなる環境負荷低減への取組を進めてまいります。



会社概要 (2026年3月31日現在)

社名	株式会社ヒガシホールディングス HIGASHI HOLDINGS CO., LTD.
設立	1944年12月
本社	大阪府大阪市中央区内久宝寺町三丁目1番9号 〒540-0013 TEL 06(6945)5611 (代)
東京本社	東京都港区新橋一丁目18番16号 日本生命新橋ビル9階 〒105-0004 TEL 03(6457)9121
資本金	10億円
主なグループ事業内容	サードパーティ・ロジスティクス(3PL)事業、輸送事業、倉庫保管事業、ドキュメントサービス事業、物流加工事業、事務所移転引越事業、IT関連事業、ビル内デリバリー事業、介護福祉関連事業、駐車場運営事業、オフィス関連サービス事業、機密文書リサイクル事業、産業廃棄物管理事業、人材派遣事業
従業員数	連結従業員数1,744名
グループ会社	株式会社ヒガシトゥエンティワン ユートランスシステム株式会社 株式会社インカワコーポレーション 株式会社FMサポート21 株式会社トランスポート21 株式会社ワールドコーポレーション ヒガシオフィスサービス株式会社 山神運輸工業株式会社 株式会社旅人 株式会社ネオコンピタンス 株式会社ピアレス

役員 (2026年6月12日現在)

取締役		執行役員					
取締役	児島 一裕	社外取締役	樋口 真人	代表執行役社長	児島 一裕*	上席執行役	角野 公史*
取締役	山田 寛	社外取締役	大西 由紀	常務執行役	山田 寛*	上席執行役	外園 千尋
取締役	田口 宗勝	社外取締役	脇 陽子	常務執行役	田口 宗勝*	上席執行役	新井 慶景
取締役	角野 公史	社外取締役	勝田 達規	常務執行役	久下 真司	上席執行役	山川 圭洋
社外取締役	江上 雅彦	社外取締役	鶴川 勝利			上席執行役	日吉 晋介

※は取締役を兼務しております。

執行役員 (2026年6月12日現在)

上席執行役員	井上 和大	執行役員	岩井 和彦
執行役員	新村 誠司	執行役員	山田 謙造
執行役員	大久保律夫		

株式の状況

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式総数	13,074,975株
	(自己株式189,025株を除く。)
株主数	5,078名

配当の状況

中間配当	行っておりません。
期末配当	1株60円

※現在、配当の決定は通期の業績を踏まえて実施しているため、年1回の期末配当としております。

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
関西電力株式会社	1,800	13.8
日本生命保険相互会社	1,040	8.0
星光ビル管理株式会社	938	7.2
株式会社毎日新聞社	700	5.4
ヒガシホールディングス従業員持株会	574	4.4
東京センチュリー株式会社	540	4.1
株式会社星和ビジネスリンク	382	2.9
株式会社三菱UFJ銀行	364	2.8
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	219	1.7
金森滋美	201	1.5

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式 (189,025株) を控除して計算し、小数点第 2 位以下を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行う。公告掲載URL https://www.e-higashi.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、毎日新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社グループの最新情報をご提供しております。
「IR情報」では、決算説明資料等の各種IR資料の公表や、経営情報、各種お知らせなどを幅広く発信しております。
ぜひご覧ください。

<https://www.e-higashi.co.jp/>

ヒガシホールディングス

検索

公式SNSはこちら



X(旧Twitter)
@Higashi_HD



note
@higashi_hd



Instagram
@higashi_group